

# SS 研システム技術分科会 2013 年度第 1 回会合

## 「災害対策から BYOD 対応まで、 BCP のための最新 ICT 技術」

～ SS 研会員、IS 研会員、CS 研会員機関の方ならどなたでもご参加いただけます ～

- 日時：2013 年 8 月 28 日(水) 分科会 13:30～17:50 (受付 13:00～) / 懇親会 18:05～19:00
- 場所：富士通株式会社 本社 24 階 大会議室 [東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター]
- 開催趣旨

近年の様々なインシデント、災害や経済状況を顧み、各組織では BCP (Business Continuity Plan / 事業継続計画) が重要な課題になっている。BCP には、ICT の支援が不可欠である。そこで、第 1 回目のシステム技術分科会では、ICT を活用した BCP について着目する。本分科会では、震災を経験された組織による具体的な ICT 支援による BCP 事例、パンデミック対策への ICT 支援、経済性と利便性を考慮した BYOD (Bring Your Own Device) の技術および事例紹介を行ない、その後、情報交換を行なう。

本年度も、昨年度に続き、講演中の講演者と聴講者が対話できる形式を予定している。

- プログラム (予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。) 敬称略

13:00～	受付
13:30～13:35	開会あいさつ
13:35～14:00 講演 25 分	<p>[1] スマートデバイスをリモコンとして活用する Web 版クリッカーの紹介 古賀 掲維 (長崎大学情報メディア基盤センター)</p> <p>近年、大学の教育現場において、アクティブ・ラーニングへの関心の高まりなどからクリッカーと呼ばれるシステムの導入が進んでいる。クリッカーは正式にはオーディエンス・レスポンス・システムと呼ばれ、教育者と学習者間の双方向コミュニケーションを可能にするシステムである。本講演では長崎大学で開発したスマートデバイスをリモコンとして活用する Web 版クリッカーについて、その特徴や利用方法などをデモも交えて紹介する。</p>
14:00～14:50 講演 40 分 Q&A 10 分	<p>[2] 学内情報通信基盤の耐震対策の効果 曾根 秀昭 (東北大学サイバーサイエンスセンター)</p> <p>東北地方太平洋沖地震による東北大学の施設への被害も甚大であったが、様々な耐震対策はよく効果したと考えられ、学内情報基盤への被害も比較的軽微であった。情報通信基盤の設備を維持できるための耐震補強など防災対策が、災害時のサービス継続を保つ減災対策、あるいは復旧・復興の重要な鍵になる。筆者の体験に基づく大学の情報基盤の被災状況及び耐震対策とその効果を報告する。</p>
14:50～15:40 講演 40 分 Q&A 10 分	<p>[3] 非常時を想定した大学 ICT のあり方と現状 梶田 将司 (京都大学情報環境機構 IT 企画室 学術情報メディアセンター)</p> <p>大学 ICT 現場においては、財政的・人材のリソースの限界から減多に生じない非常時のためのリソースは切り捨てられがちであるし、安否確認システム等、非常時にしか使用されないシステムは日常的に使用されるシステムとは切り離して構築される傾向がある。本講演では、京都大学の ICT 基本戦略を題材にしながら、通常時だけでなく非常時までを想定した大学 ICT のあり方と現状について考える。</p>
15:40～16:00	休憩
16:00～16:50 講演 40 分 Q&A 10 分	<p>[4] 九州大学における PC 必携化 殷 成久 (九州大学情報基盤研究開発センター)</p> <p>九州大学では、2013 年度の新入学部生より、講義、自習のための個人用 PC の必携化を実施している。それに合わせて、学生が個人用 PC を使用するための環境整備として、教育用無線 LAN を整備し、また、学生個人のパソコンを利用した授業の学習環境をできるだけ揃えるために、「新入生 PC 講習会」を実施した。講習会の内容は、講義に使用するソフトウェアのインストール、学生アカウントの有効化、無線 LAN の設定などである。講習会への新入学部生の出席率は 99%であった。現在「情報処理演習」などの授業では、既に学生の個人のパソコンを利用しており、混乱なく授業が行われている。本報告では、九州大学での PC 必携化の実施状況について報告する。</p>

16:50~17:40 講演 40分 Q&A 10分	[5] コンテキストデスクトップ技術 ー状況に応じてスマート端末を専用端末化ー <b>松本 達郎 (株式会社富士通研究所 ヒューマンロジックコンピューティング 研究所)</b> 個人端末を業務利用するという BYOD 技術が広がりつつある。我々はこれを一歩進めて、スマート端末を、利用者の置かれた状況に適した機能に絞り込んだ専用端末化する技術 (コンテキストデスクトップ技術) を開発した。今回は、一般的な BYOD 技術を簡単に俯瞰し、本技術の詳細、適用例を示し、簡単なデモをご覧ください。
17:40~17:50	閉会あいさつ
17:50~18:05	休憩 (ニュースレター編集会議・講演者/企画委員)
18:05~19:00	<b>懇親会 (会費 ¥500)</b> お飲物とおつまみの簡易パーティです。お気軽にご参加下さい。会費は当日受付にて申し受けます。

## ■ アクセス

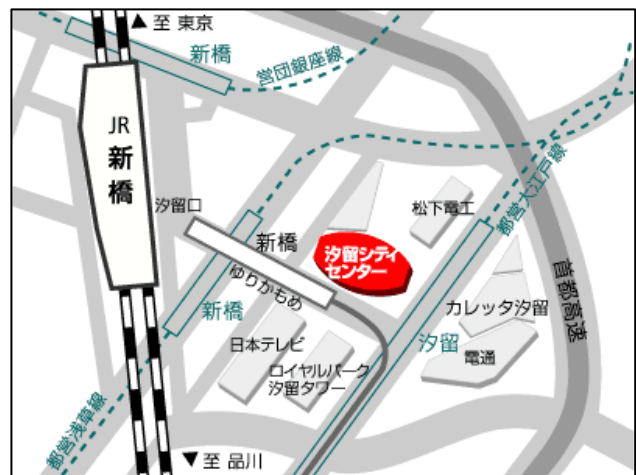
汐留シティセンタービル オフィスロビー (1 階) の会合受付経由で、24 階の大会議室へお越し下さい。  
<http://jp.fujitsu.com/facilities/shiodome/>

### <<電車でのアクセス>>

- ・ JR 新橋駅  
汐留口(地下1階)から徒歩3分
- ・ 東京メトロ 銀座線 新橋駅  
出口4 (地下1階) から徒歩3分
- ・ 都営地下鉄 浅草線 新橋駅  
汐留方面出口 (地下1階)から徒歩2分
- ・ 都営地下鉄 大江戸線 汐留駅  
JR・ゆりかもめ新橋駅方面出口(地下2階)  
から徒歩1分
- ・ 新交通ゆりかもめ 新橋駅  
出口1D から徒歩1分

### <<羽田空港から新橋駅までのアクセス>>

- ・ 東京モノレールと JR 山手線  
羽田空港 から 浜松町 経由 新橋駅 (所要時間約 30 分)
- ・ 京浜急行と都営浅草線 (直通電車)  
羽田空港 から 都営浅草線新橋駅 (所要時間約 30 分)



## ■ ご参加について

- 参加対象 : SS 研、IS 研、CS 研の各会員機関の方であれば、どなたでもご参加いただけます。
- 参加費 : 無料です。ただし、懇親会については 会費¥500 を申し受けます。
- 定員 : 100 名(予定)
- 服装 : スーパーカジュアルビズをお勧めします。(室温 28℃)

## ■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込み下さい。

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>



**【お問合せ先】** サイエнтиフィック・システム研究会 (SS 研) 事務局  
〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター  
富士通(株) カスタマーリレーション部内 (SS 研)  
TEL : 03-6252-2582(直通)  
Email:office@sskn.gr.jp URL <http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>